「漫才」がヨーロッパを変える18日間の挑戦

日本で唯一の“フランス語で漫才ができる”国際夫婦漫才コンビが欧州に挑戦する！

漫才コンビ「フランポネ」
マヌー島岡

2025年10月、日本のお笑いがついに世界の扉を叩く。その名も「FRANPONAIS OVER EUROPE TOUR 2025」。挑むのは、国際夫婦漫才コンビ「フランポネ」。フランス語と日本語を自在に操る“地球規模”のバイリンガル芸人だ。

僕らが目指すのは、笑いで文化の壁を越えること。

訪問先はパリ、ブリュッセル、マンチェスター、エディンバラなど、欧州３カ国７都市。12会場で14講座を開催し、単なる漫才ライブでは終わらず、子どもから大人まで、多国籍の人々と一緒に漫才を創り、演じ、語り合う。それは、笑いを共通言語とした異文化理解の実験であり、日本が誇るソフトパワーの新しいかたちだ。

「FRANPONAIS OVER EUROPE TOUR 2025」概要

TOUR SCHEDULE（2025年10月９日～26日）

- 訪問地：パリ、ブリュッセル、エディンバラ、グラスゴー、ニューカッスル、ダーラム、リーズ、マンチェスター
- 内　容：多言語対応の漫才ワークショップ、国際交流漫才大会、補習校・大学での出張授業、日本領事館主催イベント、文化交流準備企画

文化伝達にはローカライズが必要！

例えば――アメリカでは昔、「生魚はちょっと無理……」という人が多かった。でも、そんなアメリカでお寿司が大人気になったきっかけが、「カリフォルニアロール」！　アボカドやカニカマを使って、アメリカの人にも食べやすいようにアレンジされたからこそ、お寿司が広がった。逆に、日本ではイタリアのスパゲティが紹介されると、「納豆スパゲティ」「たらこスパゲティ」みたいに、日本の食文化に合わせてどんどん変わっていった。

このように、文化を海外に届けるときは「相手に合わせてかたちを変える＝ローカライズ（現地化）」がとても大切！　よって漫才もローカライズされる、これは海外営業の基本中の基本！

３つの言語で仕掛ける国際笑劇

フランポネの武器は「日本語・英語・フランス語」。この三刀流（トリリンガル）で、補習校の子どもたち、現地の大学生、日本語教師、さらには地域の多文化コミュニティーまで巻き込む。

今回のツアーでは、各地の大学、日本語補習校、日本領事館とも連携。さらには現地在住の日本人と即席でコンビを組み、「国際漫才大会」も開催予定だ。2026年の日・ベルギー友好160周年を見据えた文化外交の先行プロジェクトとしても、このツアーの意義は大きく、日本のお笑い界にとって一つの転機になるだろう。